

北九州市立病院機構 第7回理事会議事録

- 1 日 時** 令和3年3月12日(金) 13:30～
- 2 会 場** 北九州市立商工貿易会館3階 301会議室
- 3 出席者** 中西理事長、武田副理事長、中野理事、伊藤理事、田中理事、松本理事
(オブザーバー) 中野監事、和唐監事、岩田保健福祉局健康医療部長
- 4 議 案** (1) 令和3年度 計画について
(2) 令和2年度 予算の増額補正について
(3) 令和3年度 予算について
(4) 令和3年度 組織改正について
(5) 八幡病院における標榜診療科の設置について
- 5 報告事項** (1) 令和3年度 役員の構成について
(2) 職員への慰労金の支給について
(3) 新型コロナへの対応状況とワクチン接種について

6 議事要旨

- 議案1 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案2 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案3 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案4 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案5 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。

7 質疑応答要旨

- 議案2
(中西議長) コロナ特殊勤務手当、関連委託費等については、その一部ないしは全体が公的な支援が伴うことを付け加えたい。
- 議案3
(中西議長) 経営は大変だが、徹底したコスト削減と増収に向けた効率化等をひとつひとつ積み重ねていきたい。
- 議案4
(中西議長) 臨床研究というのは、いきなり大きな増収に結びつくものではないが、機構の臨床研究の体制を内製化することで、それなりの収益が見込める。また、

臨床研究が活発な公的病院では、優秀な若い医師が集まり、アクティビティが高まっている。即効性のあるものではないが、長期的には機構の力を付けるものになると考えている。

○報告事項 2

(田中理事) 職員への慰労金の支給は良いことなので、是非実施していただきたい。多くのコロナ患者を機構で引き受けていることが安心に繋がっていることに加え、地元に戻りたいと思っている東京の若い看護師たちを呼ぶ力にもなるのではないか。医師や看護師には別に支給されるものがあるか。

(武田副理事長) 医療センターと八幡病院の職員には国から慰労金の支給があった。今回は更に、機構本部と看護学校を含めた病院機構全職員が対象となる。

(中野監事) 慰労金は勤務実績の日数に比例した形で支給するのか。

(中西議長) 対象となる期間に1日でも勤務実績がある方に対し一律支給する。

(武田副理事長) 在籍していても、育児休暇に入っていて勤務実績が全くない職員等は支給されない。

○報告事項 3

(中西議長) 新型コロナの対応により、現場では心身ともに消耗、疲弊があるが、なんとか持ちこたえている。ワクチン接種が始まったとはいえ、行き渡るには時間がかかる。引き続きしっかり引き締めていきたい。

○市からの報告

(岩田部長) 現在、市議会が開催されており、北九州市立病院機構に対する令和2年度の補正予算や来年度予算が審議されている。

先月の本会議で、医療センターの建て替えについて質問があり、市長が答弁した。八幡病院を建て替えた際、築33年目にあたる平成23年に、西部地区の医療提供のあり方に関する検討会を立ち上げ、八幡病院の建て替えについて議論した。医療センターも既に30年経過しており、そろそろ、今後の医療センターのあり方に関する議論の準備をする時期が来たとして市としても認識している。八幡病院は、350床で150億円以上の費用がかかっている為、医療センターはそれ以上の費用がかかることになる。市としても多くの負担があるため、議会とも十分な議論が必要である。一方で、今後の医療提供体制を考えた時に、地域医療構想の中で議論される公的病院あるいは公立病院のあり方も注視する必要がある。いずれにしても、まずは経営の健全化、安定化を図っていただくことが大事である。あわせて、今後の医療センターのあり方については、機構本部とも今から議論をやらなければならないと認識している。

(中西議長) 今後については、市全体、市民の皆様のご意見をいただきながら、本部としてどう考えるかしっかり取り組んでいきたい。現在、新型コロナの対応で

大変厳しい状況ではあるが、まずは政策医療をしっかりと遂行していき、そのうえで経営体質を改善し、財政的なご迷惑を掛けないような形で、市民にとって有用な病院にしていきたい。

以上